

ジャック・アタリ「自分をコントロールすることで他者との争いを避ける。これがアジアの文明の素晴らしさだ。」

以下、

NHKスペシャル「アジア巨大遺跡 第1集 密林に消えた謎の大都市 ～カンボジア アンコール遺跡群～」

(2015年10月17日放映/ミラー⇒http://www.myvi.ru/watch/17193027101_7WBp50IWSku6o_DNkA5Mzg2)

のナレーションとインタビューを文章化したもの。

▲東南アジアの密林に世界有数の巨大都市を作り上げたアンコール王朝。その大繁栄は水利システムに代表される高度な技術力。そして世界に繋がる交易のネットワークによって支えられていたが、もう一つ**繁栄**を支える大事な要素があったとソクリティ博士は指摘している。

▲その**最大の理由は「平和」**だという。アンコールの人々は長く平和な時間を作り出していた。平和に暮らす時間が長いほど国は発展し、経済の発展を後押しして巨大な寺院の建造を可能にしたという。

▲アンコールに巨大な建造物が次々と築かれていた12～13世紀にかけて、世界は紛争が絶えない時代だった。西洋ではキリスト教徒とイスラム教徒の対立が激化し、十字軍の遠征によって血みどろの戦いが繰り返されていた。また東洋では後に武力で大帝国を築くモンゴル族が勢力を拡大、各地に戦乱が広がっていた。

▲その時代になぜアンコール王朝は、争いを避け平和な時代を長く続けることが出来たのだろうか。当時、この一帯には様々な勢力があった。クメール族のアンコールを取り囲むように、西にシャム族、北にラーオ族、東にチャム族がいて、他にも多くの民族がひしめき合い勢力争いを繰り返していた。

▲さらに宗教も信じる神がバラバラで、様々な宗派の人が入り乱れる複雑な情勢だった。例えば同じヒンドゥー教でもシヴァ神を祀るシヴァ派とビシュヌ神を敬うビシュヌ派などに分かれていた。

▲この状況を大きく変えたのが、アンコール王朝に現れた一人の王・**ジャヤヴァルマン7世**（在位1181～1218年頃）。一体どうやって平和を実現したのか。

▲彼が打ち出した政策が碑文に残されていた。“王は23の神殿に**ジャヤブッダマハーナータ**を奉納した”と。ここにアンコールが長く平和を実現した鍵が隠されているとみて、研究を続けている人たちがいる。上智大学の石澤良昭教授のチームだ。

▲アンコールから西へ600km離れたタイのムアンシン遺跡の中央に祀られた一体の石像。石澤教授たちはこれまでの研究からこの像がジャヤブッダマハーナータではないかとみている。

▲頭の上に小さな仏が彫られている。実はこの像、仏教の**観音**だ。体の装飾を詳しく見てみると、足を組む人形のようなものが大小様々に隙間なく彫られている。これは一体何だろう。

▲研究チームの一員、東南アジアの仏教美術が専門の茨城キリスト教大学の宮崎晶子博士によると観音の体に彫られているのは、当時インドシナ半島で信仰されていた様々な神だという。**お腹の彫刻は水の神・水天、胸はビシュヌ神、額に彫られているのはシヴァ神**とみられる。

▲宮崎博士は様々な神を包み込むこの観音には、それぞれの

信仰を大切にするジャヤヴァルマン7世のメッセージが込められているとみている。これまでにインドシナ半島の各地からこれと同じ像が18体見つかった。王が各勢力に向けて**信仰や価値観の違いを越えてお互いを認め合おう**と呼び掛けた証だったと考えられる。

▲こうして各地に呼び掛けた融和。ジャヤヴァルマン7世は、その象徴ともいえる**バイヨン寺院**をアンコールに建立している。**優しい微笑みを浮かべて四方を見渡しているのが、全てを包容する観音**。そして当時インドシナ半島で人々が**信仰してきた神々が一同に祀られた**。ヒンドゥー教のビシュヌ神とシヴァ神、他にも各地で信仰されてきた神々などそ



の数は117にのぼっている。またこうした寺院を各地に建立。宗教の違いを越えてお互いを認め合おうとメッセージを送ったのだ。

▲民族や宗教が違う多様な人々が、お互いを認め共存していたアンコール。西洋からもこの姿に学ぶべきだという声が挙がっている。ヨーロッパを代表する歴史家・思想家でありEU統合の立役者とも呼ばれる**ジャック・アタリ**さん。書斎には尊敬するジャヤヴァルマン7世の像が飾られている。「アンコールの人々は、相手が信じる神を支配しようとするのではなく、自分の中にまるで家族のように取り込もうとした。その精神は寛容よりもさらに深いものだ。自分とは異なる他者に共感する力、そして他人の幸せを尊重する姿勢、これらは社会を安定させ次の世代に繋げていくために大切だ。

自分をコントロールすることで他者との争いを避ける。これがアジアの文明の素晴らしさだ。現代を生きる私たちはこの文明の歴史から多くのことを学ぶべきだ」(アタリ氏)



▲宗教とか民族とか、色々なものを越えて人々が譲り合ったり分かり合ったりというものを、自然にそうなればいいのではなくて、自分たちから歩み寄って関係性を築いていこうとか、そしてみんなで未来に歩いていこうというのが、大きなメッセージであるのかなっていう風に思う。もちろん目で見てすごいという遺跡自体の迫力とか素晴らしさもあるけれども、それを造った人たちの心があるからこそ、この遺跡があるのであって、やはり血の通った人たちの願いとか祈りとか、一つ一つ石を積み上げて心を込めて造ったんだなという(アンコールの人々の)体温みたいなものをすごく感じた」(ナビゲーター・杏)

お断り：上記の引用文(ナレーションとインタビューを文章化したもの)は、

じゅにあのTV視聴録さんのHP (<http://ameblo.jp/skyblue-junior/entry-12085899616.html>)

から修正を加えて転用させていただいたものです。